

美術科学習指導案

日 時 平成24年11月9日(金) 公開授業Ⅱ
学 級 3年4組(男子21名 女子16名 計37名)
授業者 大池 早苗

1 題 材 名 「木彫タオルハンガーの制作

大テーマ：中学生活の思い出 ～人体をモチーフにして～(A表現)

2 題材について

(1) 題材について

木彫で表すレリーフ(浮き彫り)は、彫刻の学習内容である。完全な立体の丸彫りと違って、一定の制約された厚みの中に凹凸を工夫することにより、丸彫り並み、またはそれ以上の迫力ある立体感を表現することができる。そして、その制約を克服して工夫する点にレリーフの醍醐味があり、ここが、3年の題材として適している点であると思われる。人体をモチーフにしたのは、大多数の生徒が個人テーマに部活動を選ぶであろうという点、また、3年で彫刻の領域を扱うのであれば、人物または人体がふさわしいと考えたからである。

ここでは、参考作品として先輩の作品や下絵を鑑賞し、各自思い出として残る具体的場面を小(個人)テーマとして選ばせた。小テーマに基づいて資料収集を行わせ、それをもとに画面構成を工夫させ、あわせて彫りで立体感の工夫をさせたい。また、下絵作り、彫り、やすり・塗装による仕上げなどの工程を見通させて計画的に進めてさせたい。なお、完成後は生活の中で使えるように、すでにタオルハンガーとして加工されている木彫材料を選んだ。

(2) 生徒について

全体的にエネルギーがあって意欲的である。理解できると作業を一心に取り組み、次はどうすればよいか先を急ぎたがる生徒もいれば、内容を理解して定着させるまでに時間がかかる生徒もいて、進度差が大きい。特別な支援を必要とする生徒が多く、かなり個別指導を要する。

1年生では、にぼしのスケッチ、シューズの水彩画で基礎学習し、コルクピンナップボードで工芸の作業工程やアートナイフなど刃物の使い方を学習した。その終わり(3/11)に震災に遭い、2年生では隣接の青山小学校を間借りし、美術室も無く普通教室で学習した。2年生後半のスクラッチ作品で、手のスケッチを学習して、手を用いた構想画作りをし、3年生に持ち越して作品を完成した。

本時の学級3年4組は、明るく、比較的製作の進度差が少ない学級で、よく反応して声を出す生徒がいるので、ここを起点に授業展開していきたい。特に支援を必要とする生徒が1人いる他、別室登校の生徒1人と不登校の生徒が1人いる。

(3) 指導にあたって

人体スケッチのために、骨組みを立てて肉付けをしていく練習をした。立体感や奥行き感の工夫として、手前にあるものはより大きく、奥にあるものはより小さく強調した遠近法を意識させた。参考スケッチができた段階で、小テーマに迫れるようにトリミングを工夫して実物大下絵へと拡大していった。

次に、彫りの計画では、彫る部分を黒塗りし、4B鉛筆の濃淡差を活用して深く彫る部分ほど濃く、浅く彫る部分ほど淡く黒塗りしていく約束で彫りの計画を進めていった。重なり(奥行き感を表す)部分では、どちらをより深く彫り下げるのかを確認しながら進めた。混乱しないように、純粋に浮き彫り技法で行い、ししあい彫り(沈み彫り)技法は扱わないことにした。

その後の荒彫りでは、先に外側の背景を彫り下げてから重なり(奥行き感)の彫りに進み、一番奥の背景部分を更に深く彫り下げて遠近の順番をつけていった。仕上げ彫りに入って立体感や奥行き感を表すために、背景からの立ち上がり面の角度の変化(揭示図の断面1、2、3)に注目させ、

どこの部分にどの断面を活用すれば効果的かを工夫させた。また、木目には「ならい目と逆目」があることを学習し、切り出し刀と平刀の使い方に注意して仕上げ彫りを進めた。

最後の塗装では、彫り跡とやすりがけの仕上がり状況を考慮しながら3色の中から1色を選ばせ、表面は2度塗り、裏面は1度塗り仕上げた。

まとめの作品鑑賞ではそれら制作の過程を思い起こしながら振り返りをし、班ごとに各自作品紹介しながら鑑賞をして仲間メッセージを贈り合う。何人か作品紹介と贈られたメッセージ披露をもらい、次に全体観賞会をして、表現の喜びや成就感、造形的な作品のよさや美しさを味あわせたいと考えている。

3 題材の目標

目標 中学生活の思い出となる場面を切り取り、木彫レリーフ（浮き彫り）作品として表す

4 題材の評価規準

【観点1】 美術への関心・意欲・態度	【観点2】 発想や構想の能力	【観点3】 創造的な技能	【観点4】 鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> 先輩の作品や作家作品などを鑑賞し、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。 卒業を記念し、具体的場面を決めて、一枚の木彫レリーフを、人体をメインモチーフにして制作することに関心や意欲を持ち、主体的に構想を練ろうとしている。 材料や用具の特性などを生かし、主体的に表現方法を工夫している。また、制作の手順を考えて表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生生活を振り返り、卒業を記念し、主体的に一番思い出に残る場面を選んで主題（個人テーマ）を決め、画面構成や彫り方などの表現方法を構想している。 制作の手順から見通しを持ち、主体的に表現の構想を練っている。 主題を深められるように、彫り断面（立ち上がり）の変化を工夫・選択し、仕上げ彫りの構想を主体的に練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主題から豊かにイメージを広げ、集めた資料をもとに表したいイメージを持ちながら表現方法を工夫するなどして、作品の下絵を創造的にスケッチしている。 決定した下絵に基づいて、鉛筆の濃淡を活用して彫りの計画を立て、彫りの計画を確かめながら、立ち上がり部分の表現方法を工夫・選択して、彫刻を進めている。 木の性質（木目方向と木口、ならい目と逆目）を理解しやすりがけをし、彫りとやすりがけの様子から塗料の特性を生かし、塗装色を選択して創意工夫しながら仕上げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 完成作品を鑑賞して、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫を考えながら、そのよさや美しさを豊かに味わっている。

5 指導計画

【21時間】

① 導入	1時間(1/21)	⑦ 荒彫り	4時間(15/21)
② 構想、資料収集	1時間(2/21)	⑧ 仕上げ彫り	2時間(17/21)
③ 参考スケッチ、トリミング	4時間(6/21)	⑨ やすりがけ	1時間(18/21)
④ 実物大下絵	2時間(8/21)	⑩ 塗装、金具付け	2時間(20/21)
⑤ 彫りの計画	2時間(10/21)	⑪ 鑑賞とまとめ	1時間(21/21) ←本時
⑥ 下絵を材料へ転写	1時間(11/21)		

6 本時について

(1) 本時の目標（観点ごとに記入）

- ① 全制作過程を振り返り、工夫したことや努力したことを思い起こし、作品を完成させた喜びを味わう。
- ② 作品紹介を発表し合う中で、作者の心情や意図、その造形的な工夫や効果を感じ取り、作品のよさや美しさに気づき、豊かに味わう。 「鑑賞の能力」

(2) 本時の指導構想

制作の過程を思い起こしながら振り返りをし、班ごとに、作品紹介しながら鑑賞をして作者の

思いを受け止めて見方を深めさせ、作品の味わいを豊かにさせたい。そして作品にメッセージを贈り合う。何人かの作品紹介とメッセージ披露をし、さらに全体鑑賞をして1作品を選び、その作品へメッセージを贈らせ、最後に自分のまとめをさせたい。

(3) 本時の評価規準

観 点	おおむね満足できると判断できる状況【B】	十分満足できると判断できる状況【A】	評価の方法
【観点4】 作品紹介やメッセージ発表から、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫を感じ取り、互いの造形的なよさや美しさを認め合うことができる。	作品と作品紹介の発表に対して、作品のよさや美しさを見つけることができる。	作品と作品紹介の発表から、作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り、批評することができる。	作品紹介を含む名札 メッセージカード 班内、全体鑑賞会の観察

努力を要する生徒【C】への支援の手立て

<p>【観点4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品のよさや美しさを具体的に書けない。 →作品紹介の「この場面を選んだ理由と制作への思い」、「工夫・努力した点」に注目をさせ、作品のよさや美しさを具体的に書けるように支援する。 →画面構成、彫りの段階、やすり・塗装の段階の三段階にしぼって、その中から作品のよさや美しさを見つけ、具体的に書けるように支援する。
--

(4) 本時の展開

過程	学習内容と活動	指導上の留意点 ※評価	留意点・備考
<p>導入 10分</p>	<p>1 前時のふり返りと今日の授業の流れを確認する (1分)</p> <p>2 制作の全過程を振り返る。</p> <p>3 学習課題の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>作品鑑賞会で、自分たちの作品のよさや美しさを見つけ、豊かに味わおう。</p> </div>	<p>・授業の流れの紙板書で確認</p> <p>・視覚資料と自己評価表で、制作の全過程を振り返らせ、工夫・努力点を思い起こさせる。</p>	<p>・授業の流れは貼っておく。</p> <p>・準備 自己評価表は机上 鑑賞シート配布する。</p>
<p>展開 30分</p>	<p>4 班ごとに作品観賞とメッセージ記入を行う。(15分)</p> <p>・時計回りに作品をまわして鑑賞する。</p> <p>・メッセージを記入する。</p> <p>5 何人かに作品紹介と、贈られたメッセージの中から一つを披露してもらおう。(5分)</p> <p>6 全体鑑賞会をし、1作品にメッセージを贈る。(10分)</p> <p>・各班1分ぐらいずつ鑑賞して回る。</p> <p>・自班に戻って、1作品へのメッセージを記入する。一斉に作者の机に貼って来る。</p>	<p>・一作品ずつ「この場面を選んだ理由と制作への思い」、「工夫・努力した点」を読みながら鑑賞し、メッセージを記入する。</p> <p>・メッセージは作者の心情(思い)や意図、工夫や取組の様子などにも触れられるように指導する。</p> <p>・作者の心情(思い)や意図、工夫や取組の様子などにも触れている点を意識させる。</p> <p>※【観点4】</p> <p>・各自の机の上に作品を置かせ、各班を班ごと、まとまって順に回って鑑賞させる。</p> <p>・作品と作品紹介の名札を見て、1作品を選ばせる。</p> <p>※【観点4】</p>	<p>・作品には「この場面を選んだ理由と制作への思い」、「工夫・努力した点」を記入した名札兼作品紹介を貼っておく。</p> <p>・メッセージカードは事前に相手と自分の氏名を書かせておく</p> <p>・机間巡視で観察</p> <p>(鑑賞の様子を観察)</p>
<p>終末 10分</p>	<p>7 各自、自分の作品へのメッセージを読みながら、鑑賞シートの「鑑賞を終えて」を記入する。</p> <p>8 何人かに、シート記入の発表をしてもらう。</p> <p>9 最後に授業の評価を記入する</p>	<p>記入の観点</p> <p>① 自分へのメッセージを見て、特にうれしかった内容とその理由</p> <p>② 作品制作と鑑賞から学んだこと</p> <p>※【観点4】</p> <p>・「オール5」取組の自己評価をさせる。</p>	<p>鑑賞シートの回収する。</p>

3年 組 番・氏名

学習課題

作品鑑賞会で、自分たちの作品のよさや美しさを見つけ、豊かに味わおう

メッセージカードの書き方

(相手の名前)	さんへ

(自分の名前)	より

- ・作者の思い、工夫・努力した点を読んでして記入すること
- ・よい点や美しい点を見つけ、どんなふうによいのかを記入すること

〈鑑賞会のまとめ〉

① 自分へのメッセージで、特にうれしかった内容とその理由	_____ _____ _____
② 作品制作や鑑賞で学んだこと	_____ _____ _____

授業の自己評価 (○・×)

	評価項目	自己評価		評価項目	自己評価
1	あいさつ(姿勢・声)ができたか		4	私語なく集中して取り組めたか	
2	ベル席は守れたか		5	積極的に発言、反応、話し合い、取組ができたか	
3	忘れ物はしなかったか		6	協力して準備や後始末ができたか	

<仲間からのメッセージ欄>